

- 府中市では、誘致した漬物製造業者から地元産野菜の供給を強く求められたが、稲作中心の地域で野菜生産が少なく、ニーズに応えられなかった。
- このため、生産者と関係機関が連携してJA庄原甲奴郡加工用野菜部会を設立し、**共同利用機械の整備、新規栽培者の育成確保、栽培方法の改善、契約栽培の拡大**などに取り組んできた。
- その結果、販売量・販売額ともに年々増加し、令和3年度の販売量は約700トン、販売額は5,700万円を上回った。

具体的な成果

1 加工用野菜の販売額等の増加

- 産地が徐々に拡大し、販売額等が増加傾向であり、農家の収益が向上。

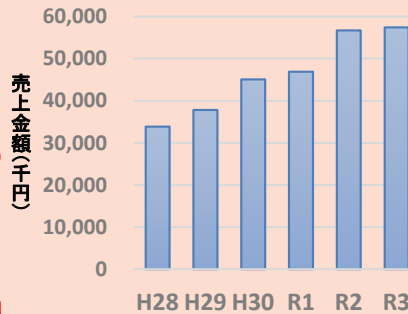
(H28→R3)

① **販売額(千万円)**

3.3 → 5.7

② **作付面積**

12ha → 16ha



2 実需者からの高い評価

- S社では、全国400の契約産地の中から当産地のキャベツの品質が高く評価され**2年続けて最優秀賞・優秀賞を受賞。**

3 地域が元気になってきた

- 「仲間を増やし地域を盛り上げるぞ！」をスローガンに、**パンフレット・ポスターを作成。**農業体験会の開催など初心者にも手厚いサポート。



4 契約取引による経営安定化

- 一定価格での契約取引で**農家の経営が安定化。**
- 安定取引の継続に向けた生産計画の目的が立つようになってきた。



普及指導員の活動

令和2年以前

- 部会への**定期的な技術指導。**

令和3年

- キャベツの**品種展示ほを設置**し、定番品種に代わる有望3品種を選定。

- 収穫作業の負担を軽減するため**アシストスーツを試験導入**し実用機種を選定。

- 根こぶ病が多発したため、**県事業を導入**して、産地全体で土壌pHの改良に取り組む。



令和4年

- 新規栽培者を重点的に支援。
- **スマートフォンを利用した部会員への情報提供を提案。**
- 根こぶ病対策の効果確認。
- 肥料費高騰に伴う鶏糞利用の検討

普及指導員だからできたこと

- ・ 専門技術を持ち、農業技術センターや他県の技術を知る普及指導員だからこそ、**産地に課題が発生した時に迅速に解決策を提案。**

- ・ 日頃から連携している先進農業者、市、JA、県行政、民間企業等の**関係機関を結び付け、産地拡大に向けた総合的な取り組みを進める**ことができた。

広島県

中山間地域の担い手が踏ん張る加工用野菜産地

活動期間：令和3年～令和7年度

1. 取組の背景

府中市は、広島県の東南部内陸地帯に位置し、年平均気温 14.6℃、年降水量 1,250mm、標高 30～500mと標高差が大きく平地が少ない典型的な中山間地域である。「府中家具」や「府中味噌」といった伝統品や、非鉄金属・生産用機械など世界に誇るナンバーワン・オンリーワン企業の本社があるものづくりが盛んなまちとして有名であるが、農業振興ビジョンを新たに策定し、農業振興にも力を入れている。



加工用野菜産地化の取組みは、平成25年に誘致した漬物製造業者から地元産野菜の安定供給を強く求められたこと、また、県を挙げてキャベツの生産振興を推進していたことから始まり、生産者と関係機関（府中市、JA庄原、県）が連携して、JA庄原甲奴郡加工用野菜部会が設立された。

2. 活動内容（詳細）

（1）新たな担い手の育成確保

近隣福山市の事業者が農業事業部を立ち上げ、令和2年より新規にキャベツ等の加工用野菜の栽培 1.8ha に取り組んでいる。当所では、この事業者のは場を部会展示ほに位置付け、定期的に巡回、農場長とともに生育調査を実施しながら、基本技術の習得や、生育確認のポイントについて支援してきた。また、展示ほ検討会の際には、部会員と農場長の情報交換を促し、地域に打ち解けるよう働きかけてきた。

また、令和4年より新規に就農（アスパラガス 24a、キャベツ 53a）した栽培者に対しても定期的に巡回し、基本技術の習得を支援している。

（2）スマート機器による従事者の負担軽減等の実証

キャベツ、はくさい等の重量野菜では、収穫作業が重労働となり、高齢者が多い当産地では課題である。

近年、開発が目覚ましいアシストスーツに着目し、情報収集を行ったところ、地元府中市の繊維メーカーが、開発に着手しているという情報を入手した。メーカーから商品の特徴等について詳しい説明を聞いた上で、生産部会で試験導入したところ、コンテナの持ち上げ時などに腕やひざの負担が軽減されるとの評価を得た。

アシストスーツを利用した重量野菜の収穫作業負担軽減

- 導入機器：e. z. u p（イージーアップ）
（アシストスーツ）
持ち上げ作業が必要な様々な現場で利用できる。
- 導入経営体：甲奴郡加工野菜部会（府中市）
- 栽培品目：加工用野菜（キャベツ・はくさい）
- 生産者の声
 - ・ 導入の経緯
高齢化や人手不足が深刻になってきており、作業者の負担軽減に向けて、地元企業が開発したスマート農業機器への期待から。
 - ・ 導入した感想
作業時の腕や腰の負担を軽減してくれる。価格も手頃で汚れても洗濯できるのが嬉しい。装着がもっと簡単にできるとさらに便利。
 - ・ 今後の運用について
装着がより簡単になった新商品への期待大

問い合わせ先：東部農業技術指導所
tel：084-921-1311

当所の調査結果と実需者の品位調査を総合して、春作については2品種、秋作については1品種を選定することができた。

品種名	府中市産品	府中市上下町失野	府中市上下町失野	府中市上下町失野	府中市上下町失野	府中市上下町失野
生産者名						
地域	府中市上下町失野	府中市上下町失野	府中市上下町失野	府中市上下町失野	府中市上下町失野	府中市上下町失野
調査日	6/10	6/10	6/10	6/10	6/10	6/10
株間 cm	35	35	35	35	35	35
条間 cm	40	40	40	40	40	40
定植日	3/15	3/15	3/15	3/15	3/15	3/15
収穫日	6/14	6/14	6/14	6/14	6/11	6/14
定植～収穫 日	91	91	91	91	88	91
重量 kg	1.8	2.1	2.2	1.6	2.1	1.7
規格 玉	6	5	5	7	5	6
球高 cm	13.6	12.9	14.7	13.9	11.8	12.9
球径(長径) cm	21.2	21.2	20.0	19.2	22.8	21.0
球径(短径) cm	20.3	20.3	18.8	17.3	21.0	19.3
芯重 g	108.3	95.7	98.0	80.0	90.7	113.0
芯長 cm	7.6	7.0	7.8	8.2	5.7	8.7
芯径(最大径) cm	4.3	4.3	4.0	4.2	3.0	4.5
肩円度 球高/球径	0.64	0.61	0.74	0.72	0.52	0.61
芯高度 芯長/球高	0.56	0.54	0.53	0.59	0.48	0.67
軸球率 g/cm ³	0.59	0.72	0.76	0.66	0.71	0.62
歩留り(N) (1-芯重/重量)×100	94.0	95.4	95.5	95.0	95.7	93.4
写真及び評価						
写真 全体 断面 評価 重量・規格...g 形状... 芯高さ... 軸球率... 歩留り... 総合評価... ⇒ ◎、○、△、×で評価	評価 重量・規格...1.8kg・6玉 形状...扁平 芯高さ...0.56 軸球率...0.59 歩留り...94% 総合評価◎	評価 重量・規格...2.1kg・5玉 形状...扁平 芯高さ...0.54 軸球率...0.72 歩留り...95.4% 総合評価◎	評価 重量・規格...2.2kg・5玉 形状...やや扁平 芯高さ...0.53 軸球率...0.76 歩留り...95.6% 総合評価×	評価 重量・規格...1.6kg・7玉 形状...やや扁平 芯高さ...0.59 軸球率...0.66 歩留り...95.0% 総合評価○	評価 重量・規格...2.1kg・5玉 形状...扁平 芯高さ...0.48 軸球率...0.71 歩留り...95.7% 総合評価○ 収穫開始が早い	評価 重量・規格...1.7kg・6玉 形状...扁平 芯高さ...0.67 軸球率...0.62 歩留り...93.4% 総合評価×
備考 (生育中の気づき等)	評価 加工しやすい 移行してほしい品種 外葉の老化や裂球が多品種より遅く開始し、最終的な収球率は低かった。 外葉の老化が に次いで早く、最終的な収球率は50%だった。トップバランが発生した。 評価 千切り後軽い 外葉ゴワゴワ 採用を控えてほしい に 次いで早く、最終的な収球率は75%だった。 評価 可もなく不可もなく 裂球は早かった。最終的な収球率は75%だった。 収穫開始期が多品種より7日早かった。 収球も早く、最終的な収球率は75%だった。 芯が硬い(収穫しにくい)という意見があった。 評価 善きが悪い 芯がよい 採用品要なし 外葉の老化が に次いで遅く開始したが、最終的な収球率は高かった。またトップバラン発生が少なかった。					

(3) 地域が元気になってきた(生産部会の機能強化)

部会では「仲間を増やし地域を盛り上げるぞ!」をスローガンにパンフレット・ポスターを作成し生産者を募っている。

初心者のハードルを低くするため、まずは見学会を開催し、次に座学研修、先輩農家の元で収穫作業等の研修会に参加する手順を設けている。

先輩農家は「お互い忙しいときは助け合ったらいい」という雰囲気、部会員相互の絆が強まっている。



(4) 契約取引による経営安定化



キャベツ、はくさいは、コンテナ出荷での省力的な出荷調製、販売経費の削減、契約出荷による安定的な価格での有利販売が行われている。契約単価は、JAが実需者と協議して決定している。売り上げは、年による出来、不出来はあるものの米の約5倍を目安にしている。

4. 農家等からの評価・コメント(府中市上下町 S氏)

実需者のS社では、全国400の契約産地の中から当産地のキャベツの品質が高く評価され、2年続けて最優秀賞・優秀賞を受賞することができ、部会員一同大変喜んでいる。

「仲間を増やし地域を盛り上げるぞ!」をスローガンに、今後も産地拡大に積極的に取組んでいきたい。

5. 普及指導員のコメント(東部農業技術指導所・主査・三宅寿美子)

生産者と関係機関が粘り強く取り組んできた結果、実需者から信頼される加工用野菜の産地化が図られてきました。

コロナウイルスの影響が長引く中で、家庭でもカット野菜の利用が増えるなど消費形態も変化しつつあり、加工用野菜へのニーズが一層高まっています。また、燃油・資材が高騰する中で、輸送コストが安く鮮度が良い強みを持つ地場産地の発展を引き続き支援します。

6. 現状・今後の展開等

引き続き、新規栽培者の育成・確保に取り組むとともに、選定した品種での安定生産、肥料費高騰に対応した地元鶏糞利用の促進、根こぶ病対策の徹底を図る。

また、スマート機器を活用して部会員との情報交換を活発に行い、ほ場ごとの栽培履歴や土壌条件を調査・マッピングし、作付計画と連動して安定生産へ計画出荷につなげる。

当面の目標である令和7年の販売額1億円を目指し、中山間地域のモデルとなる産地化をすすめる。